

タイトル

おじいちゃん どうし
ちやったの

①

ぼくの家にはおじいちゃんが
います。

ぼくのおじいちゃんはとても優
しくて

いつもにこにこしています。

だけど、おじいちゃんは、
この頃ちょっと変なんです。
いろんなことを忘れてしまうの
です。

②

はじめは、今日が何日なのか何曜日なのかはわからなくなって、テレビやカレンダーや新聞で確かめていました。

それからテレビのことやカレンダーのこともわからなくなって、ごはんを食べたかどうかを忘れるようになりました。

③

おじいちゃんは、「トイレに行く」と言って、部屋を出ていくけど、トイレの場所を忘れてしまったのか、台所に行ったり、廊下をうろうろしたり、家の中を歩きまわるようになりました。

それから、
ぼくのことをお父さんの名前でよん
だり、
ぼくが話しかけても、
知らない人と話すように、
そっけないこともありました。

⑤

また、おじいちゃんは
「財布がない」「鍵がない」と
自分でしまった場所を忘れて、
いつも探し物をするようになりました。

「誰かにとられた！」と怒っているこ
ともありました。

⑥

おじいちゃんは、だんだん心細くなって、
忘れていることが他にもたくさんあるよ
うな気がして
イライラするようになりました。

周りのみんなが、おじいちゃんのイライ
ラをみて、困っているのがわかります。
おじいちゃんも、この頃には、
自分が誰なのかわからなくなりそうで、
怖くてこわくてたまらないのです。

でも、おじいちゃんは
まわりのみんなに言葉でどう伝えれば
いいのかわからなくて、怒ったり、不安
になったり、悲しくなるのです。

でも、とてもはっきりわかっている日もあるのです。

お父さんは、

「おじいちゃんは認知症という病気なんだよ。認知症という病気は脳の病気で、もの忘れがひどくなったり、できていたことができなくなったりするんだよ。だから、何度も同じ事を聞いたりするけど、おじいちゃんはあることに聞いたことを忘れてしまうんだ…。だから何度も何度も同じことを聞くんだよ…。そうしないとおじいちゃんは不安なんだ…。そんな時は怒ったりしないでやさしく教えてあげてね。」と言いました。

ぼくは、おじいちゃんが困っている時や一人でできない時には、優しく教えてあげようと思いました。

今日が何月何日かわからなくなったら、今日が何月何日かを、一緒にテレビを見たり、新聞をみたりして、教えてあげます。

ごはんを食べたかどうか忘れてしまったら、「もうすぐごはんできるって！」と声をかけて一緒にお茶を飲んで、おじいちゃんが覚えている昔の話を聞いてあげます。

すると、おじいちゃんは、心が満腹になって、ついでにお腹もいっぱいになります。

⑨

トイレの場所がわからなくなって、迷っている時は、手をつないで一緒にトイレに行って「ここがトイレだよ」と教えてあげます。

また、おじいちゃんが探し物をしていたら、「どうしたの？」とやさしく声をかけて、一緒に探します。

おじいちゃんは、とても大事なものが突然見当たらなくなってしまったので、不安な気持ちでいっぱいです。

もしぼくが先に見つけても、おじいちゃんが自分で見つけやすいように、わかりやすい場所へ置くようにしています。

大事なものがみつかり、「あった！良かったあ！ありがとうね」と言って、おじいちゃんはいつもの優しい笑顔のおじいちゃんに戻ります。

⑩

認知症という病気になったおじいちゃんは、
すぐ忘れたり、できないことが増えたりし
て、怒ったり、
落ち込んだりすることもあるけど、
ぼくは、おじいちゃんのことを大好きです。

ぼくはおじいちゃんが不安そうな時は、
おじいちゃんに優しく声をかけて、
できないことのお手伝いをしようと思いま
す。

いつもニコニコしているおじいちゃんによ
うに、
ぼくもニコニコ笑顔で、おじいちゃんの不
安な気持ちを、
安心させてあげたいと思います。

そして、外でも、ぼくの知っているおじい
ちゃんやおばあちゃんが困っていたら、
ニコニコ笑顔でお手伝いをしたいと思いま
す。